

利尻島におけるサクラソウモドキの再発見

宮本誠一郎¹⁾・佐藤里恵²⁾・佐藤雅彦³⁾

¹⁾ 〒097-1201 北海道礼文郡礼文町香深入舟 レブンクル自然館

²⁾ 〒097-0401 北海道利尻郡利尻町杵形字栄浜

³⁾ 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

Rediscovery of *Cortusa matthioli* subsp. *pekinensis* var. *sachalinensis* from Rishiri Island

Seiichirou MIYAMOTO¹⁾, Rie SATO²⁾ and Masahiko SATO³⁾

¹⁾The natural Rebuncle, Kafuka, Rebus Is., Hokkaido, 097-1201 Japan

²⁾Sakaehama, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

³⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. Although *Cortusa matthioli* subsp. *pekinensis* var. *sachalinensis* was recorded from Rishiri Island on several previous floral lists (Tatewaki, 1941; Matsuno, 1984), there were no additional reports or confirmations from the island in the past quarter century. The habitat and population size are confirmed by the rediscovery of this plant in 2010 and 2011.

サクラソウモドキ *Cortusa matthioli* subsp. *pekinensis* var. *sachalinensis* は、北海道レッドデータブックの希少種 (R)、環境省の絶滅危惧 IB 類 (EN) に指定される希少種である (北海道森林管理局, 2009)。北海道の分布としては、宗谷、上川、網走、後志、空知、日高、十勝、釧路が知られているが (伊藤ほか, 1990; 北海道森林管理局, 2009)、その分布は局所的とされている (梅沢, 2009)。北海道北部では、幌延町、中川町、枝幸町などのほか (北海道森林管理局, 2009)、離島からは利尻島、礼文島の報告がされており (館脇, 1934; 館脇, 1941; 松野, 1984)、礼文島では多くの沢や草原で普通に確認できる一方、利尻島については松野 (1984) 以来、その記録は途絶えていた。筆者らは 2010 年および 2011 年に利尻島内において本種の開花を確認することができたので、その生息状況などについて以下に報告する。なお、報告にあたり、北海道大学所蔵標本についてご

教示いただいた高橋英樹さん (北海道大学総合博物館)、本種の北海道北部についての自生状況についてご教示いただいた村山良子さん (枝幸町)、英文校閲の Ronald L. Felzer さん (Merritt College, U.S.A.) にお礼申し上げる。

自生が確認された場所は、利尻山の標高約 650 m 付近である。最初の確認は 2010 年 7 月であり、筆者の宮本と佐藤里恵は別の花の写真撮影のために現地を登山中、オオヨモギ、オオイタドリなどに隠れるように咲く本種 1 株に偶然気づいた (図 1)。この株の頭花は 4 花あり、うち 1 つの花はすでに花期が終わっていた。株の高さは 25cm、葉の数は 18 葉を数え、葉の大きさは 2.0-7.5×1.7-8.0cm と様々であった。その後、周辺地域内で本種の発見に努めたが、他の株を見つけることはできなかった。そのため、2011 年の同時期に、宮本と佐藤雅彦は再び本種の生育状況と周辺地域の探索を、双眼鏡 (10×25B, カールツァイス



図1. 利尻島で2010年に確認されたサクラソウモドキの開花株。

社)および望遠ズームレンズ (VR80-400mm, ニコン) による撮影などによって実施したところ, 最初の発見場所の上部にあたる断崖に広がる, 緩斜面の帯状の草地に比較的まとまった群落があることを確認することができた。ダケカンバが散在するこの草地はおよそ 50×6 m の広さを持つが, サクラソウモドキの自生が確認された箇所は南西に面した長さ 30 m ほどの範囲のみであった。この草地上に確認された草本としては, ヤマブキショウマ, ヨブスマソウが優占するほか, キジムシロ, チシマフウロ, ヤマハナソウ, オオイタドリ, オオヨモギ, イワベンケイがあり, ダケカンバの他に, ナナカマド, ミヤマハンノキも点在した。この時の筆者らの観察では, サクラソウモドキの房状に咲く花がよく見え, 開花の最盛期と思われた。この草地には崩落の危険があり近づくことができないため, ひとかたまりの花序を1株と考え, 10m ほど離れた安全な場所から双眼鏡による株数の確認を行ったところ, 42 株を識別することができた。おそらく草本などの陰で確認できない株もあることを考えると, およそ 50 ~ 60 株ほどがこの場所に自生しているものと推測された。自生地の周辺やさらに標高の低い場所の同様の草地における探査も行ったが, サクラソウモドキを確認することはできなかった。

1934 年に館脇操氏によって採取された利尻産標本 (北海道大学所蔵) は, 今回の産地とは異なる場所からのものであるという (高橋私信)。また, Hinoma.com (2008) で示された産地とも異なるため, 島内

には複数の産地が存在している可能性がある。今後は島内の他地域における更なる調査と現状確認が望まれる。近年, 利尻島内では高山植物などの盗掘が度々確認されており, 本種も含めた希少種の調査および保全については, より一層の注意を払っていくことが必要であろう。

参考文献

- 北海道森林管理局, 2009. 希少野生動植物ハンドブック 植物編I. 北海道森林管理局計画部計画課。
- Hinoma.com, 2008. Flora of Hokkaido. Distribution maps of vascular plants in Hokkaido, Japan. <http://www.hinoma.com/maps/index.shtml>, 2011年12月20日引用。
- 伊藤浩司・日野間 彰・たくぎん総合研究所(編著), 1990. 北海道高等植物目録 IV. たくぎん総合研究所, 244pp.
- 松野力蔵 (編), 1984. 利尻島の植物目録と礼文島特産植物目録. 38pp. 自刊。
- 館脇 操, 1934. 北見礼文島植物概説, 植物目録: 1-24. 北海道景勝地協会. 札幌。
- 館脇 操, 1941. 北見利尻島の植物. 札幌農学会報, (34): 70-102.
- 海沢 俊, 2007. 新北海道の花. 北海道大学出版会. 札幌. 462pp.